

下関市の海洋安全と教育体験機会の創出(海と日本 2025)

実施報告書

2026 年 3 月

1. 出前授業の実施・成果発表、映像発信

期間:2025 年 6 月～10 月

対象:下関市立角倉小学校 4 年 1 組(31 名)

講師:九州大学大学院工学研究院 環境社会部門生態工学研究室 准教授

うみつなぎ統括ディレクター 清野聡子氏

子どもたちにとって身近な「海」の仕組みや不思議を、科学的な実験や体験を通じて解き明かすことで知的好奇心を刺激し、海洋環境保全や海との共生に向けた具体的なアクションにつなげることを目的とした。

出前授業の内容(2025 年 6 月～10 月)

1 回目(6 月 5 日)「僕らの海自慢・関門海峡を知ろう」

プロジェクトのキックオフとして、児童たちが地元の海について知っていることを発表しあう

「僕らの海自慢」を実施。その後、清野先生によるミニ講座を行い、関門海峡の複雑な地形や潮流の速さ、歴史的な背景について解説し、身近な海の重要性を改めて認識した。

2 回目(6 月 25 日)「関門海峡の海の情報図を作ろう」

大きな地図に参加者全員で情報を書き込むワークショップを実施。「潮流の向き」「船の通り道」などを視覚化することで彦島周辺の海の全体像を多角的に捉えた。

この過程で、児童たちの興味を「海流」「船」「歴史」「地形」「トンネル」の 5 つのカテゴリーに分け、研究チームを編成した。

3 回目(7 月 15 日)「潮流実験&疑問解決スペシャル」

水槽とモーターの動きで複雑な水流が発生する様子を観察し、海流の動きを科学的な視点から考察し、理解を深めた。

また、児童からの「なぜ海流は時間で向きが変わるのか？」等の質問に専門的な見地から回答し、夏休みの探求課題へのヒントを提供した。

4 回目(9 月 18 日)「研究成果の発表練習とブラッシュアップ」

夏休み期間を使って調査した内容を持ち帰り、中間発表会を実施。模造紙やスライドを用いた

プレゼンテーションに対し、講師やスタッフから「伝えるための表現」について具体的なフィードバックを行い、本番での発表を見据え、専門的な知見を自分たちの言葉で表現できるよう内容を練り上げた。

研究発表会「わたしたちの関門海峡 なぜ？なに？研究発表会」

日時:2025 年 10 月 18 日(土)14:10～14:40

場所:ボートレース下関 中央スタンドステージ

5 か月にわたる出前授業の集大成。自分たちの足で調べ、磨き上げた探究の成果を披露する舞台として、多くの市民が詰めかけるイベント会場での本番に臨んだ。

映像発信

出前授業の様子、研究発表会の模様を 3 回にかけて放送した。

	放送日	放送時間	放送番組名
1回目	2025/7/25	17:15～17:53	kry every.らいふ
2回目	2025/10/15	17:15～17:53	kry every.らいふ
3回目	2025/11/5	17:15～17:53	kry every.らいふ

1 回目

下関市彦島周辺の関門海峡の学び～関門海峡の海の情報図を作る～

子どもたちが断片的に知っている関門海峡の情報を図にまとめていき、今後調べたい 5 つのテーマと班分けを行った。



2 回目

10月18日の研究発表会に向けての発表練習会

子どもたちが夏休み中に調べて準備をした5つの班ごとに発表を行った。

各班の発表をもとに、清野先生などのアドバイスをもらい、準備を進めた。



3 回目

研究発表会「わたしたちの関門海峡 なぜ？なに？研究発表会」を実施。

6 月からおよそ 5 か月間ふるさとの海と向き合ってきた成果を発表するイベントに密着した。



2. 下関市の海洋安全と教育体験機会創出イベント

イベント名: 海のふしぎ研究所

日時: 2025 年 10 月 18 日(土)19 日(日) 10:00~16:00

場所: ボートレース下関 西スタンド

参加人数: 10,000 人(2 日間)

協賛: ボートレース下関

三方を海に開かれた「海口県」である山口県の海を未来へ引き継ぐため、次世代を担う子どもたちを中心に海への関心と理解を深めることを目的として実施。

★体験型イベント

会場内に、海の自然科学や環境問題をテーマとした 9 つの体験ブースを展開した。

各ブースでは「なぜ？」という問いかけから始まり、実験装置や模型を用いて、そのメカニズムを視覚的・体験的に解き明かす構成とした。

・9 つのコンテンツ

- 「関門海峡について知ろう！パネル展示」
- 「対流はなぜ起こる？温度の違う水を重ねよう」
- 「海の塩分濃度を知ろう！色水カクテル実験」
- 「台風はなぜ海で起きる？ミニ台風発生装置実験」
- 「船はなぜ浮いて進むの？粘土で船を作ってみよう」
- 「水圧ってなに？&海の危険と安全を学ぼう」
- 「潮の満ち引きはなぜ起きるの？模型で学ぼう！」
- 「海ごみ問題を知ろう！鳴き砂体験&ワークショップ」
- 「波はなぜ起きる？プールで波起こし実験」

会場内ではシールラリーを展開し、複数のブースを体験する動機付けを図った。
 3つのコンテンツをクリアした証として「修了証」と「サコッシュ」を贈呈。
 シールを集める過程を楽しみながら、多角的に海を学ぶ子どもたちの姿が多く見られた。



★成果発表 研究発表会「わたしたちの関門海峡 なぜ？なに？研究発表会」

「海流」「船」「壇ノ浦の戦」「巖流島」「トンネル」の5チームに分かれ、劇やクイズを交えた創意工夫を凝らした演出で成果を披露。

ゲストの村重杏奈氏も驚嘆するほどの深い洞察に加え、自らの言葉で海への想いを伝えようとする真摯な姿は、会場に大きな感動を呼び、聴衆からは惜しみない拍手が送られた。



★海洋体験プログラム(SUP体験)

普段立ち入ることのできないボートレース場の水面では、海でのあそびを体験する機会として、SUP 体験会を開催。参加者はインストラクターから指導を受けた後、水上散歩を楽しんだ。参加した保護者からは「こんな特別な場所で体験できるなんて、最高の思い出になります」「ちゃんとできるのか心配でしたが、すぐ立ち上がれて楽しそうで良かった！」との声が聞かれた。



★食を通じた海洋教育(ふくパエリア、ふく唐揚げ)

下関特産の「ふく(フグ)」を用いた大鍋パエリアの実演販売を実施。調理工程の披露により食への関心を喚起するとともに、海水温上昇に伴う生息域の変化など、海で起きている環境異変を伝える場とした。用意した各 200 食は完売し、実食を通じ海の恵みと環境問題を自分事として捉える機会となった。

